

社会的交流とチームパフォーマンス 「雑談」がチームを強くする科学的メカニズム

Closing the Psychological Distance: Effect of Social Interaction on Team Performance

服部 圭介（青山学院大学 経営学部）・山田 麻以（日本大学 経済学部）



Take Away: まとめ

- 社会的交流がチームパフォーマンスを高める「メカニズム」の科学的解明
社会的交流は、仲間の「思いやり」の正しい理解を促し、メンバー間の思いやりの温度差を縮めることで、努力が補完的なタスクのチームパフォーマンスを高める。
- 社会的交流が効果的: 損失回避傾向が高い慎重なチーム・同性チーム

■ 実務への示唆

- ① 交流機会の構造化
戦略的投資としてのランチ会や社内イベント
- ② 人事評価システム
向社会的人材は、他の向社会性を高める貴重な存在
- ③ 効率的な社会的交流
損失回避傾向が発しやすいプロジェクトに特に有効
向社会性・感情認知能力の人事における評価
心理的安全な環境づくりでシナジーを活かす

1 Research Background: 背景

- Nike, Airbnb, LEGO などは従業員の「社会的交流」を重視
- 社内イベント、ランチ会、オフィスBARの設置など
- Google や Pixar は、「偶然の出会い」をオフィスに設計
- 社会的交流の効果:
 - メンバーに対する互いの「思いやり」の気持ちが均質化
- 社会的交流が「どのように」チームパフォーマンス向上に役立つかは未解明



2 Research Question: 目的

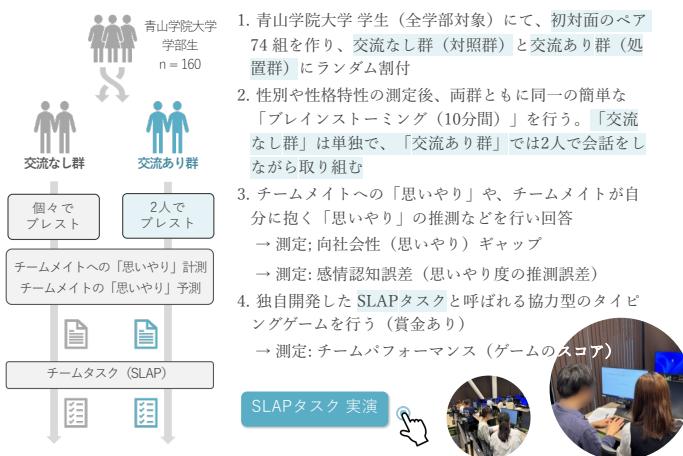
- ゲーム理論を援用した数理モデルと、大学生を対象としたラボ実験で
- ① チームでの社会的交流が、チームパフォーマンスに及ぼす影響を検証
 - ② 特に、社会的交流がメンバー間の「思いやり」ギャップを小さくする効果に着目
 - ③ 社会的交流が、「なぜ」「どのように」「どのようなチームの」パフォーマンスを向上させるのかを解明

3 Theory & Prediction: 理論と予測

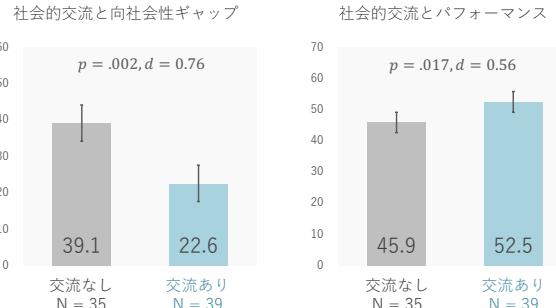
- ゲーム理論を援用した「チーム生産」の数理モデルを構築
 - 2人のチームメンバーが、努力が補完的なチームタスクに取り組むようなモデル
 - チームメンバーは、チームメイトに対する向社会性（思いやり）を持ち、それが「社会的交流」の程度によって近づく（均質化する）と仮定
- 予測 ①: 社会的交流はメンバーの思いやり（向社会性）ギャップを縮める (♡)
- 予測 ②: 社会的交流はチームパフォーマンスを高める (△)
- 予測 ③: 損失回避傾向の強いチームほど、♡, △ の効果が高い
- 予測 ④: シナジーが強いチームほど、♡, △ の効果が高い



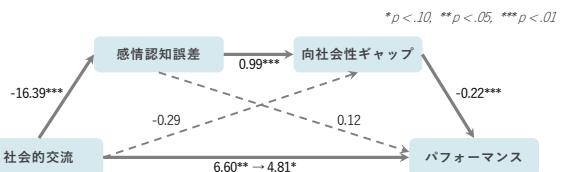
4 Lab Experiment: ラボ実験



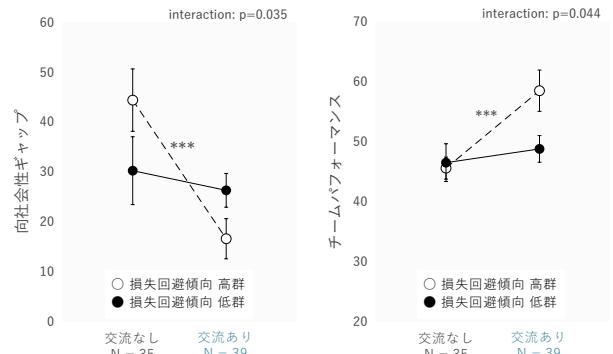
5 Results: 実験結果



➡ 社会的交流は、メンバー間の「思いやり」ギャップを縮小（予測 ①の実証）
社会的交流は、チームパフォーマンスを高める（予測 ②の実証）



➡ 社会的交流により、仲間が自分に抱く「思いやり」感情の正しい認知を促し
それがメンバー間の「思いやり」ギャップを縮小し、パフォーマンスが向上



➡ 社会的交流は、損失回避傾向のチームの「思いやり」ギャップを小さくし、
チームパフォーマンスを高める（予測 ③の実証）

- ▽ その他の興味深い結果
- 社会的交流は、特に同性ペアの「思いやり」ギャップを小さくし、チームパフォーマンスを向上させる（予測 ④の実証）
 - 社会的交流により、タスクでのコミュニケーションの質と量が有意に向